

『真光寺川 里親の会』通信

10月号 一通算第103号

2009年10月11日

真光寺川周辺の夏の植物相

2 2009年8月14日の午前9時から12時まで広袴公園及びこれより下流の真光寺川の植物調査を行いましたので報告します。植物は季節によって住み分けていますので、今回の調査が全ての植物を示すものではありません。ですが、一般的に花は春と秋に多いと思われがちですが、それは虫媒花や鳥媒花の花の綺麗な植物がこれらの季節に多いからで、カヤツリグサ科やイネ科の花など目たない風媒花の植物は夏にも咲いていますので、夏の調査も必要になってきます

地 質的には川床は一部ブロック化されている所もありますが、上総層群、約100万年前に海底でできた地層に属しているようです。地形的には開発された多摩丘陵地の低い平坦部を緩やかな勾配で鶴見川に合流しています。普通、川原を代表する植物はカワラサイコ、カワラニガナ、カワラノギクなどカワラにつく植物だといわれますが、これらの植物は多摩川などで少なくなっています。真光寺川では護岸されていますので、カワラにつく植物は見られません。川の作用として侵食、運搬、堆積が知られています。真光寺川の「平成橋」から上流では植物の生育は少ないようです。これは泥土の運搬はあっても堆積がないために植物が根を張れないと考えられます。「しただ橋」にくると植物が増え、さらに「能ヶ谷橋」「権現橋」に来ると川床に占める植物の割合（被度）が高くなります。鶴見川の合流地



アカバナユウゲショウ

点付近になると、小石（礫）と泥の混じったいわゆる、川原の様子を呈している所もありますが、植物的には変化はありませんでした。

今 回の調査を通して感じたことは、外国から来て野生の状態で生育している帰化植物が多い、ということでした。雑木林など、日本に昔からある樹木や草花がしっかりスクラムを組んでいる場所には帰化植物は侵入できません。人為的干渉のあった場所に侵入します。そんなことから帰化植物は自然の良し悪しを計るバロメーターといわれています。帰化植物数を全植物数で割って100をかけた数値（%）を帰化率といいます。帰化植物には種名に下線を引いて示しましたので、皆さんで計算してみてください。



イヌビエ

以 下に調査結果を挙げます。調査方法は植物体に近づけないために目視によります。同定（分類学上の認定）が確かでないものはなににの仲間とかなにの類としました。ヒメガマは認識できましたが、他のガマは認識できませんでした。

（調査：吉田三夫 岩上誠次 桜井文夫 文：吉田三夫 写真撮影：2009.09.16）

調査地域	(分類)名称	下線は外来種
	(アヤメ科) キショウブ (ツユクサ科) ツユクサ (イネ科) <u>ジュズダマ</u> 、オギ、ヨシ、クサヨシ、メヒシバ (ヤシ科) シュロ (サトイモ科) セキショウ (ガマ科) ヒメガマ (ガマ)	
真光寺川の植物	(カヤツリグサ科) アオガヤツリ、 <u>シュロガヤツリ</u> (ヤナギ科) ヤナギの仲間 (ニレ科) エノキ (又はケヤキ) (クワ科) ヤマグワ、マグワ (アサ科) カナムグラ (イラクサ科) カラムシ、ヤブマオ (タデ科) イヌタデ、オオイヌタデ、ミソソバ、イタドリ (オシロイバナ科) <u>オシロイバナ</u> (ナデシコ科) ウシハコベ (キンポウゲ科) ボタンツル (ドクダミ科) ドクダミ (ベンケイソウ科) <u>オカタイトゴメ</u> 、 <u>ツルマンネングサ</u> (バラ科) ユキヤナギ (マメ科) クズ、ヤブマメ (カタバミ科) カタバミ、 <u>イモカタバミ</u> (ヒルガオ科) ヒルガオ (ブドウ科) ヤブガラシ、ノブドウ (アオイ科) <u>ムクゲ</u> (アオギリ科) アオギリ (ウリ科) カラスウリ、 <u>アレチウリ</u> (アカバナ科) <u>メマツヨイグサ</u> (アリノトウグサ科) <u>オオフサモ</u> (ウコギ科) セイヨウキツタ (アカネ科) ヘクソカズラ (ゴマノハグサ科) キリ (ミズキ科) ミズキ (キク科) <u>セイタカアワダチソウ</u> 、 <u>ホウキギクの仲間</u> 、 <u>オオアレチノギク</u> 、 <u>ヒメムカシヨモギ</u> 、 <u>オオブタクサ</u> 、 <u>コセンダングサ</u> 、 <u>アメリカセンダングサ</u> 、 <u>ヨモギ</u> 、 <u>キバナコスモス</u>	

調査地域	(分類)種名	下線は帰化植物
広袴調整池の中の植物	(イネ科)ヨシ、オギ (ガマ科)ヒメガマ(ガマ) (ヤナギ科)ヤナギの仲間 (アカバナ科)メマツヨイグサ (アリノトウグサ科)オオフサモ (キク科)オオブタクサ ヒメムカシヨモギ オオアレチノギク アメリカセンダングサ ヒメジョオン	
広袴調整池の回りの植物	(ツククサ科)ツククサ (イネ科)イヌムギ シマズズメヒエ、エノコログサ、アキノエノコログサ、イヌビエ、オヒシバ、オニウシノグサ、メヒシバ、ジュズダマ、ススキ、ホソムギ (サトイモ科)セキショウ (カヤツリグサ科)コゴメガヤツリ、ミコシガヤ、アオガヤツリ (タデ科)ミチャナギ、ギシギシ類 (オシロイバナ科)オシロイバナ (ヒコ科)イヌビユ	
(公園)	(アブラナ科)イヌガラシ (マメ科)アカツメクサ、シロツメクサ (トウダイグサ科)オオニシキソウ、コニシキソウ、(ブドウ科)ヤブガラシ (アカバナ科)アカバナユウゲショウ (ウコギ科)セイヨウキツタ (ヒルガオ科)ヒルガオ (キク科)ヨモギ、セイヨウタンポポ、セイタカアワダチソウ、ノゲシ、アメリカカタカサブドウ、コセンダングサ、キクイモ	

真光寺中学校 1 年、真光寺川グリーン作戦に協力

去る9月16日(水)9時30分に真光寺中1年生3クラス105名と引率先生7名が広袴調整池公園広場に真光寺川グリーン作戦のために参集しました。始める前に、山岡会員から真光寺川に住む魚達、山本会員から季節に飛来する小鳥達の四季の説明をしました。その後川添に沿って鶴見川の合流地の開戸親水まで歩を進めました。現地では私から川と古代文明について、特に川をクリーンに確保することが如何に大事であるかを説明しました。合流地点では生徒たちが三々五々川に入り遊ぶ姿が自分の子供時代を彷彿させるものがありました。帰りには川の周辺のゴミを拾い、広袴公園に集合、ゴミの分別作業をして元気に学校に向かいました。このような実践活動を通して川をクリーンにする意義を理解していただいたことと思います。(生江 透記)



開戸親水で説明を聞く生徒

『めだかポスト』

9月は出前講座の講師料の寄付、一木会からの寄付を合算して、合計7,039円でした。有難うございます。

ご厚志を頂くに当って、ご負担をかけない様に「**印字済払込取扱票**」をポスト脇のファイルに入れてあります。「**赤インク印字の払込取扱票**」をご利用頂ければ、**手数料無料**でお振込みが出来ます。またなるべく**ATMでの振込み**をご利用ください。どうかよろしくお願いたします。

郵便振替 『00150-4-574114』 加入者名 『真光寺川里親の会』

私たちの行動基準

1. 私たちの活動は、地元や地域の人たちに支持されているか。
2. 私たちの活動は、自然に対して謙虚であるか。
3. 私たちの活動は、誰にも解るように説明されているか。

11月の清掃日は8日(第2日曜日)です、一緒に川をきれいにしませんか・・・

☆ スケジュール **9:30 下堰親水場 集合**
 09:30 開戸親水場～神明橋間の清掃
 11:30 打ち合わせ(「いちよう会館」) 12:30 解散予定

『 <http://www.shinkojigawa.com/> 』 ホームページへご意見感想をお寄せ下さい

『真光寺川 里親の会』 会長：山口 拓郎 町田市鶴川1-10-13 TEL/Fax 042-735-0382
 事務局：町田市広袴3-24-11 山本隆治 TEL/Fax 042-736-0214 e-mail ryuji.yamamoto@beach.ocn.ne.jp